

第4章 瀬戸市地域公共交通総合連携計画の評価

1. 地域公共交通総合連携計画

バス利用者の減少を背景に、平成21年9月をもってJR東海バスが全面撤退することとなり、長期的な視点から瀬戸市の目指すべき公共交通の姿を明確にするとともに、公共交通事業を維持していくために、「瀬戸市公共交通総合連携計画（平成21年度～25年度）」を平成21年6月に策定しました。

また、平成26年3月、計画の中間評価を行った上で、基本的な方針及び目標を踏襲しつつ計画期間を延長するとともに、事業の進捗を踏まえ内容を一部改定しました。

<計画区域>

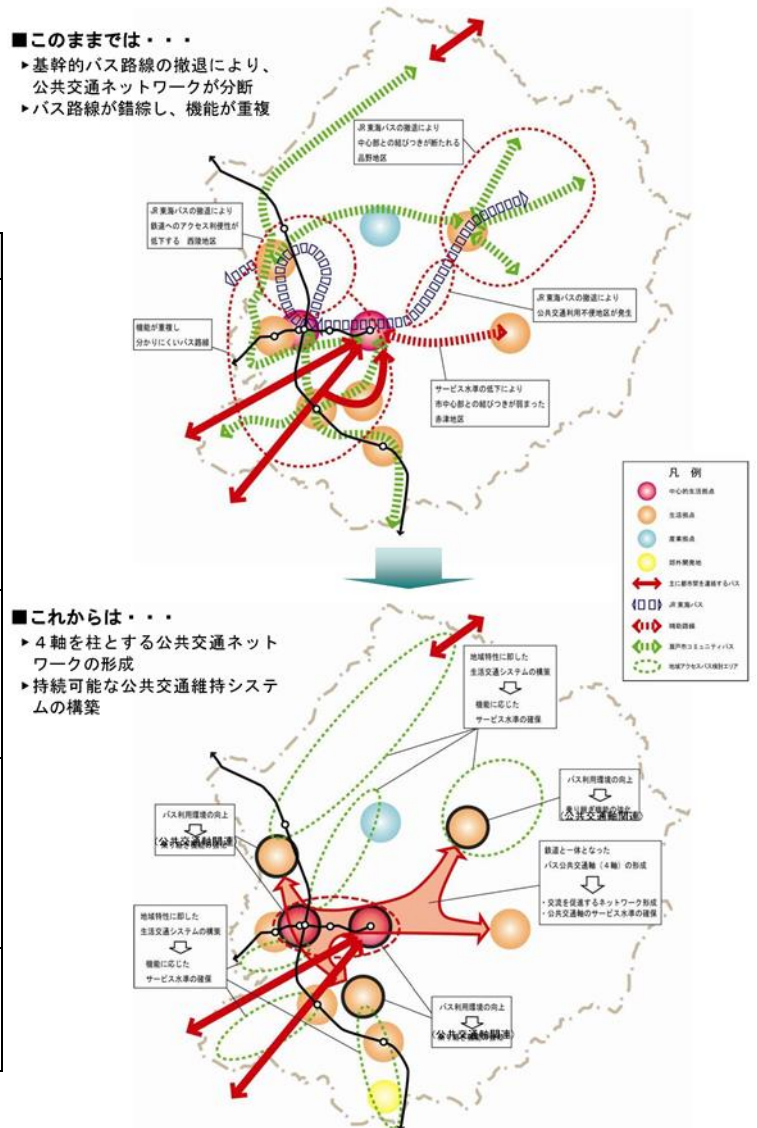
瀬戸市全域

<計画期間>

平成21（2009）年度～平成28（2016）年度

<基本的な方針と目標>

基本的な方針	目標
①利用しやすい公共交通ネットワークの形成	<ul style="list-style-type: none"> 公共交通の役割分担の明確化と公共交通軸の形成 地域特性に即した生活交通システムの構築 機能に応じたサービス水準の設定 バス利用環境の向上
②持続可能な公共交通維持システムの構築	<ul style="list-style-type: none"> 公共交通軸の維持システムの構築 生活交通の維持システムの構築
③自助・共助による公共交通の利用促進	<ul style="list-style-type: none"> 市民の自発的な交通行動の変容を誘導する効果的施策の展開 市民参加による生活交通システムの運営
④バス交通施策の段階的実施	<ul style="list-style-type: none"> PDCAサイクルによるバス交通施策の段階的実施



2. 実施状況と評価

(1) 利用しやすい公共交通ネットワークの形成

<実施状況>

目標	実施事項
①公共交通の役割分担の明確化と公共交通軸の形成	<ul style="list-style-type: none"> ・広域基幹バス、市内基幹バス、コミュニティバスの役割を明確化した。 ・市の運行補助により瀬戸北線、水野循環線・みずの坂線、赤津線を運行し、事業者により運行される東山線と合わせて公共交通軸を確保した。
②地域特性に即した生活交通システムの構築	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティバス8路線を運行し、通院・買い物等の移動手段を確保した。 ・乗継拠点であるしなのバスセンターを整備し、地域特性に応じて路線を再編した。
③機能に応じたサービス水準の設定	<ul style="list-style-type: none"> ・市内基幹バスは概ね毎時1本以上の運行、コミュニティバスは通院・買い物等での利用が可能な運行本数・運行ルートとしてサービス水準を確保した。 ・鉄道のダイヤ見直しに合わせて乗継に配慮した時刻設定を行い、サービス水準を確保した。
④バス利用環境の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティバスへのバリアフリー車両の導入や、しなのバスセンターの整備による待合環境の向上など、バス利用環境を向上させた。

<評価>

コミュニティバス利用者数は増加したものの、市内基幹バス利用者数は減少し、合計のバス利用者数は平成21年度から平成29年度で約4%減少しました。なお、この期間に市の人口は約2.5%減少しており、人口減少よりも多い割合でバス利用者数が減少しています。

	H21年度	H29年度	増減者数	増減割合
市内基幹バス利用者数	763,996人	708,524人	-55,472人	-7.26%
コミュニティバス利用者数	71,095人	93,353人	+22,258人	+31.31%
合計	835,091人	801,877人	-33,214人	-3.98%

コミュニティバス利用者数は、品野地域ではしなのバスセンター供用開始・瀬戸北線と連動した運行見直し及び、商業施設や人口が多い団地への乗り入れ、幡山地域では愛知医大への乗り入れ、水野地域・中央地域では沿線人口の増加や陶生病院への乗り入れにより、増加しているものと考えられます。

一方で、基幹バス利用者数は、沿線人口が減少していることや、一部の便をコミュニティバスに振り替えたことで減少しているものと考えられます。特に、瀬戸北線と東山線において減少幅が大きいですが、当該路線沿線の連区では平成21年度から平成29年度で人口が約15%~20%減少していることや、高齢化の進展により通勤需要が減少していることが影響していると考えられます。

(2) 持続可能な公共交通維持システムの構築

<実施状況>

目標	実施事項
①公共交通軸の維持システムの構築	・市内基幹バス沿線協議会を4地区で設置し、市民、交通事業者、行政が三位一体となり市内基幹バスの維持・活性化に向けた取り組みを行っている。
②生活交通の維持システムの構築	・コミュニティバス運行協議会を3地区で設置し、市民、運行事業者、行政がコミュニティバスの運行状況等を共有し、運行内容の見直し等を行っている。

<評価>

市民、交通事業者、行政が三位一体となり、市内基幹バス・コミュニティバスの維持・活性化に向けた取り組みを実施しています。

また、市内基幹バスの運行にかかる市負担金は概ね9千万円前後、コミュニティバスの運行にかかる市負担金は概ね5千万円で推移しています。連携計画当初の平成22年度と比べると、平成29年度には市負担金は減少しています。

	H22年度	H29年度	増減
市内基幹バスの市負担金	85,890千円	86,230千円	+340千円
コミュニティバスの市負担金	56,160千円	50,110千円	-6,050千円
合計	142,050千円	136,340千円	-5,710千円

	H22年度	H29年度	増減
市内基幹バスの収支率	56.46%	53.47%	-2.99%
コミュニティバスの収支率	10.73%	14.68%	+3.95%

コミュニティバスは、平成23年度以降は運送収入等が800万円～900万円で安定し、平成22年度と比較して市負担金が減少し収支率も向上しています。

市内基幹バスは、利用者の減少に伴い運送収入等は減少し続けているが、平成23年度に市負担金が1億円を超えたことを除き、近年は8千万円～9千万円で安定しています。

市民、交通事業者、行政による沿線協議会の取り組みとして、利用実態の把握や利用促進を目的としたバスの乗り方教室の開催、広報紙の作成、配布などを実施しています。

また、菱野団地では「住民バス」運行に向けた「菱野団地コミュニティ交通運行協議会」が設立され、社会実験を経て本格運行を実施しています。

＜市内基幹バス沿線協議会＞

設置地区	開催回数	主な取組
品野台地区沿線協議会	年10回程度	<ul style="list-style-type: none"> ・バスの乗り方教室（ぬくも里まつり参加者対象） ・バス広報の発行（年3回程度）
下品野地区沿線協議会	年10回程度	<ul style="list-style-type: none"> ・バスの乗り方教室（下品野小学校4年生対象） ・バス広報の発行（年3回程度）
西陵地区沿線協議会	年10回程度	<ul style="list-style-type: none"> ・バス停周りの維持管理および交通大監視 ・バス広報の発行（年3回程度）
赤津地区沿線協議会	年3回程度	<ul style="list-style-type: none"> ・赤津連区だより発行

＜コミュニティバス運行協議会＞

設置地区	開催回数	主な取組
こうはん線運行協議会	年3回程度	<ul style="list-style-type: none"> ・利用状況の把握及び利用促進に向けた検討
品野3線運行協議会	年3回程度	<ul style="list-style-type: none"> ・利用状況の把握及び利用促進に向けた検討
曾野線運行協議会	年3回程度	<ul style="list-style-type: none"> ・利用状況の把握及び利用促進に向けた検討
菱野団地コミュニティ交通運行協議会	年12回程度	<ul style="list-style-type: none"> ・菱野団地「住民バス」運行事業についての検討・分析
下半田川線運行協議会	年3回程度	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティ交通社会実験に向けた検討・実施結果の分析
その他	未定	<ul style="list-style-type: none"> ・本地線における運行協議会設置に向けた検討・説明会の開催
		<ul style="list-style-type: none"> ・上之山線における運行協議会設置に向けた検討

(3) 自助・共助による公共交通の利用促進

<実施状況>

目標	実施事項
①市民の自発的な交通行動の変容を誘導する効果的施策の展開	<ul style="list-style-type: none"> 瀬戸北線及び赤津線の沿線住民を対象に交通行動の変容を促進するアンケートを実施した。
②市民参加による生活交通システムの運営	<ul style="list-style-type: none"> 市内基幹バス沿線協議会、コミュニティバス運行協議会を設置し、住民参加により公共交通の検討を行っている。 菱野団地で「住民バス」を運行している。

<評価>

公共交通利用に対する市民意識の変化の把握を目的とした沿線住民アンケート調査（平成23年8月）を行ったところ、約7割の回答者が「以前より公共交通の必要性を今感じている」という回答を得ました。市内基幹バスのサービス水準向上施策（運行本数の増加、運行時間帯の拡大等）や公共交通利用促進策（総合交通マップの配布、動機付け資料の配布等）の取り組みによる効果が意識の変化に寄与したと考えられます。

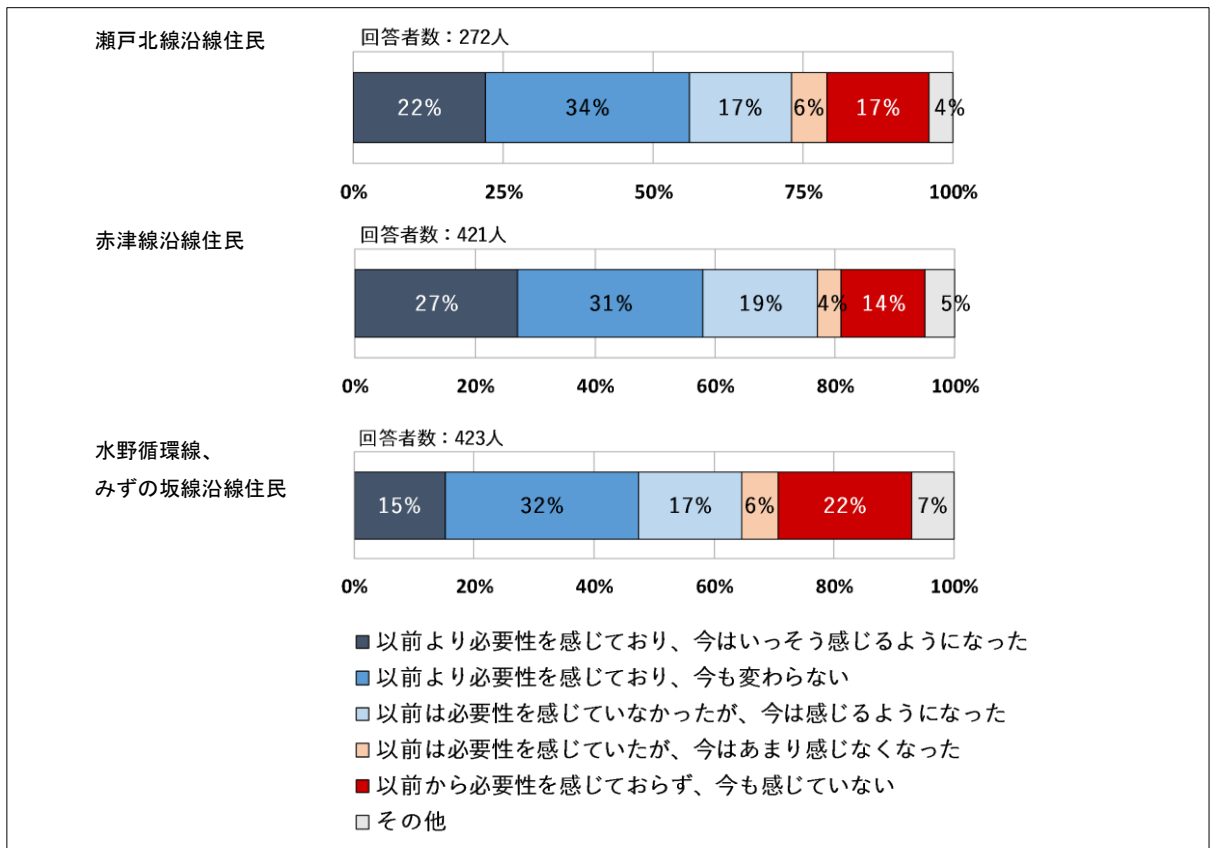


図 公共交通利用に対する意識の変化

瀬戸北線及び赤津線の沿線住民を対象としたアンケート結果（平成23年1月）では、協力意向のあった回答者のうち約7割の人が自動車から公共交通へ転換しており、新たな公共交通の利用が確認されました。

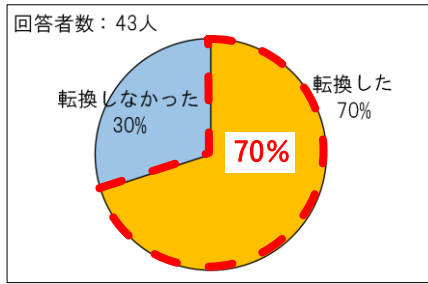


図 自動車から公共交通利用への転換率

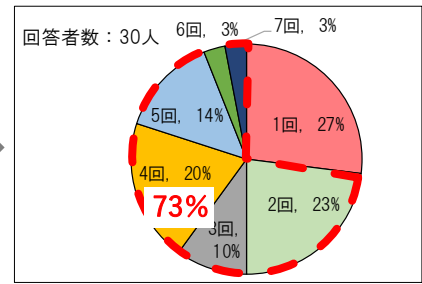


図 「転換した」と回答した人の転換回数

表 転換率の高い属性

回答者の属性	転換率
高齢者（65歳以上）	75%
勤め人及び主婦・無職	68～78%
最寄りの公共交通機関まで徒歩10分未満	73%
自動車を利用できない人	83%

菱野団地内の公共交通空白地域を解消するため、平成29年度に地域主導型交通「住民バス」の社会実験を行いました。結果、運転手（有償ボランティア）、利用者ともに一定数が確保され、菱野団地住民アンケートでは、「必要だと思う」「高齢者が外出しやすくなる」「菱野団地の活性化に役立つ」との回答が多く、本格運行に向けた取り組みを行うことになりました。その後、平成30年8月から「住民バス」の運行を再開しています。

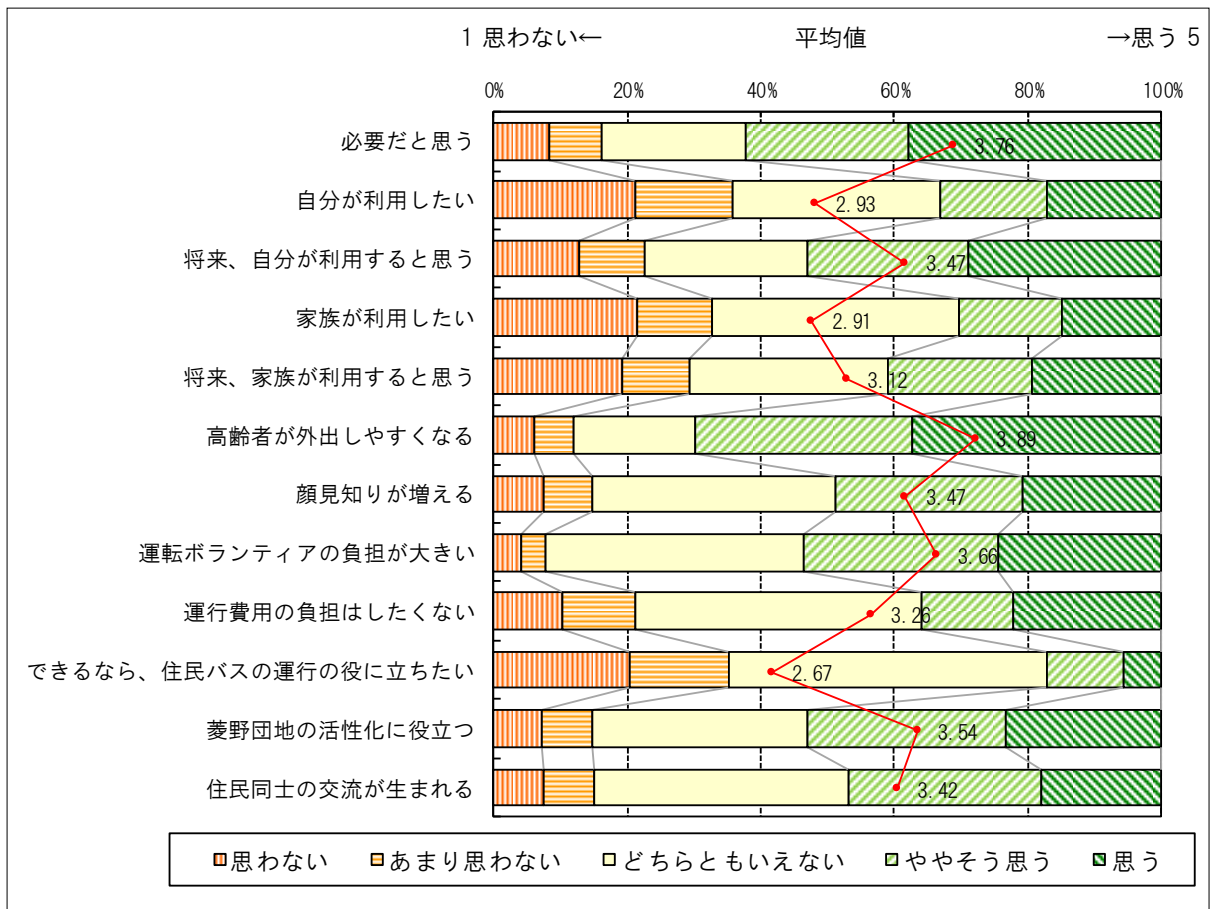


図 住民意向調査結果

出典：「菱野団地にお住まいの方へのアンケート調査結果」

(4) バス交通施策の段階的实施

<実施状況>

目標	実施事項
①PDCAサイクルによる バス交通施策の段階的实施	<ul style="list-style-type: none"> ・「瀬戸市地域公共交通総合連携計画」を策定して以降、年間3回の地域公共交通会議を開催し、取り組み実態及びその効果を確認するとともに、評価結果を踏まえた取り組みを実施してきた。

<評価>

年3回の地域公共交通会議開催により、きめ細かな改善を検討・実施しています。

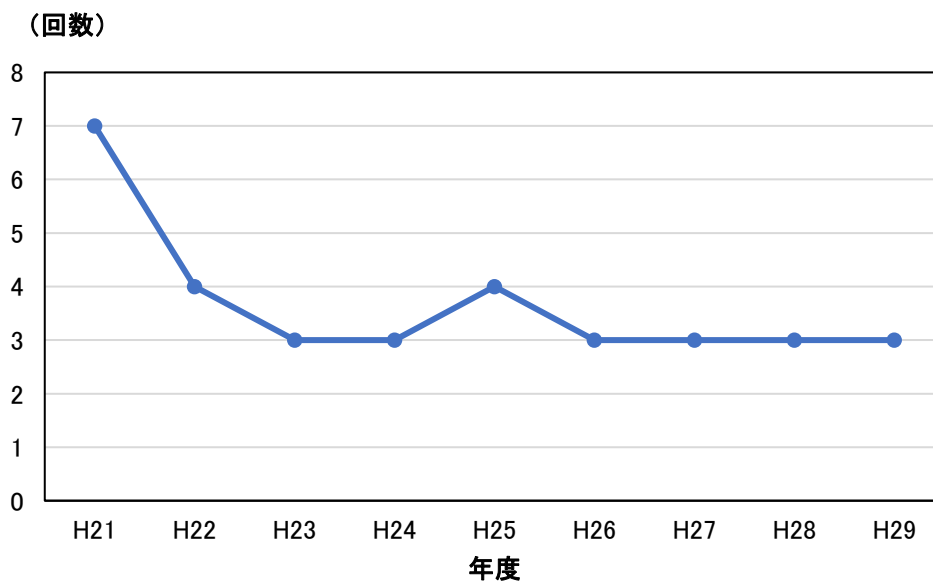


図 地域公共交通会議の開催数

参考資料 地域公共交通総合連携計画に基づく事業の取り組み

水野循環線・みずの坂線（瀬戸循環線みずの循環・やまて循環）

【2009年9月以前】

- ・JR東海バスが平成21年9月30日撤退

【2009年10月】

- ・名鉄バスが運行開始
- ・みずの坂線が中水野駅へ乗り入れ

【2011年4月】

- ・やまて循環の廃止
- ・みずの坂線（新瀬戸駅～中水野駅）を運行開始
- ・水野循環線を見直し

【2014年4月】

- ・愛知環状鉄道「中水野駅」の乗継調整のためダイヤ変更

【2016年11月】

- ・名鉄瀬戸線「新瀬戸駅」の乗継調整のためダイヤ変更

下半田川線・曾野線（下半田川・定光寺線）

【2009年4月】

- ・運行開始

【2011年4月】

- ・バリアフリー車両の導入
- ・曾野線がしなのバスセンターへ乗り入れ
- ・曾野線を1日7往復に変更

【2017年7月～12月】

- ・下半田川線で「デマンド型タクシー」社会実験の実施

上半田川線・片草線・岩屋堂線（片草・白岩線）

【2009年4月】

- ・運行開始

【2011年4月】

- ・バリアフリー車両の導入
- ・しなのバスセンターへ乗り入れ
- ・停留所の新設
- ・路線変更（延伸）

【2013年4月】

- ・路線変更（パロー品野店乗り入れ）
- ・停留所の新設

【2016年4月】

- ・路線変更（北山団地他住宅地沿線等）
- ・停留所の新設

こうはん線（中心市街地線）

【2009年4月】

- ・運行開始

【2011年4月】

- ・中心市街地線廃止
- ・こうはん線運行開始
- ・バリアフリー車両の導入

【2013年4月】

- ・運行時間の適正化
- ・停留所の位置（路線）変更

【2016年4月】

- ・車両変更
- ・路線変更（陶生病院まで延伸等）

瀬戸北線

【2009年9月以前】

- ・JR東海バスが平成21年9月30日退出

【2009年10月】

- ・名鉄バスが運行開始
- ・最終便を延長
- ・朝通勤時間帯を増便
- ・瀬戸追分から新瀬戸駅へ延伸

【2011年4月】

- ・乗継拠点（しなのバスセンター）の供用開始
- ・最終便の延長を見直し
- ・朝通勤時間帯を増便を見直し
- ・上品野～品野間の昼間時間帯の廃止（コミュニティバスへ振替）

【2014年4月】

- ・平日通勤時間帯における運行便数の適正化

赤津線

【2009年9月以前】

- ・名鉄バスが運行
- ・市による赤字補てん
- ・昼間時間帯は運休

【2009年10月】

- ・昼間時間帯の運行を開始

【2011年4月】

- ・運行配分の見直し

【2014年4月】

- ・昼間時間帯の運行に伴うダイヤ調整

【2016年11月】

- ・土休日の上り最終便の廃止
- ・停留所の新設・名称変更

【2016年11月】

- ・名鉄瀬戸線「尾張瀬戸駅」の乗継調整のためダイヤ変更

上之山線・本地線

【2009年4月】

- ・運行開始

【2011年4月】

- ・バリアフリー車両の導入
- ・本地線愛知医大へ乗り入れ

菱野団地

【2017年7月～12月】

- ・地域主導型交通「住民バス」社会実験の実施

【2018年8月】

- ・地域主導型交通「住民バス」の運行再開

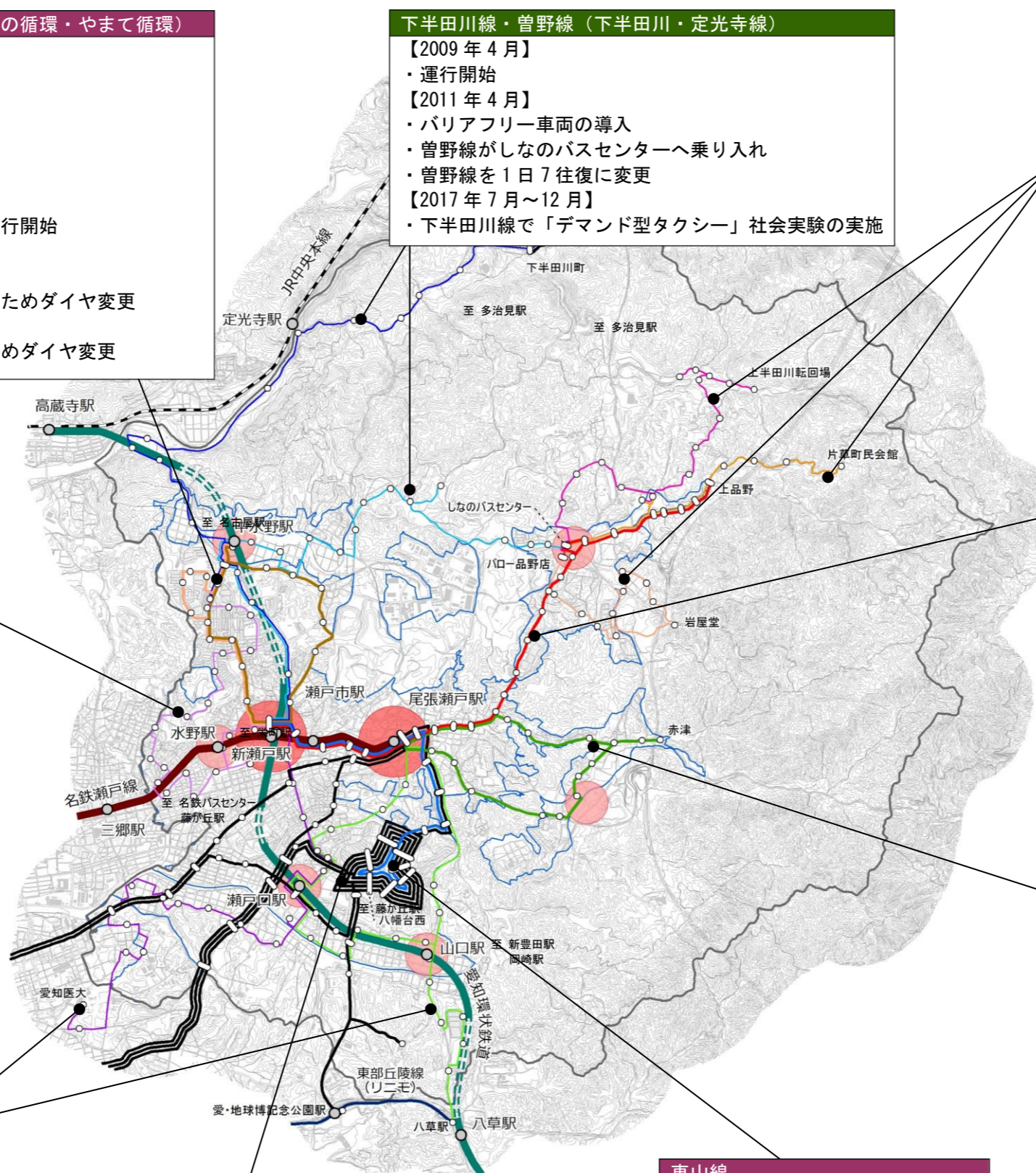
東山線

【2009年10月】

- ・名鉄バスが運行開始
- ・一部の便を新瀬戸駅へ乗り入れ

【2018年10月】

- ・休日における運行便数の適正化



空白ページ